



2016. 2. 1

2月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸YMCAちとせ幼稚園

寒い冬空の下でも、園庭からは子どもたちの元気な声が聞こえてきます。一人ひとりの子どもが、自分で選んだ遊びを楽しみ、また自分の居場所を見つけて過ごしている姿は、見ている大人の気持ちを穏やかにしてくれます。また、年長児の遊ぶ姿は幼稚園での残された時を惜しんでいるかのようにも思えてきます。そんな遊ぶことに飽きることのない幼児期の子どもたちのエネルギーは、やはり子どもたち自身に与えられた自ら成長していく力を感じさせてくれるものです。しかし、大人の中にはそのような子どもたちの遊ぶ姿を見て、「遊んでばかりいて、大丈夫だろうか」と思う人がいることも事実です。

現代の子どもたちの課題は、「生きる力」の乏しさとも言えるのですが、この「生きる力」とは自分の気持ちを表現すると同時に、自分とは異なる他者の気持ちや意見を受け入れていく人間関係能力や、失敗してもくじけないで、自分で考えて何度でもやり直そうとする強い意思であったりするのです。そして、何よりも「生きる力」を発揮する基礎となるべきものは、やはり「生きる喜び」であって、本当に子ども自身が毎日の生活の中で、この「生きる喜び」を感じているかどうか問われているのです。大人が、将来役立つからと幼児期から多くの課題を与えて、子どもがそれに答えて褒められることばかりを求めているのであれば、その評価基準は子どもの中にはありません。その評価基準は大人が考える成果や、大人の指示に従う従順な子どもの姿であって、それを喜んでいるのは大人だけかも知れません。しかし、子どもにとっての遊びは、大人を満足させるためのものでも、大人の評価や賞賛を求めるものでもありません。子どもにとっての遊びは、子ども自身が工夫し、納得するまで繰り返し、子ども自身が、「ああ楽しかった」「やっと出来た」「これでよし」と思えることが何よりも大切であって、このような遊びを通して、まさしく「生きる喜び」を感じていくのです。

子どもには自ら成長する力が与えられています。そしてまた、子どもには子ども自身が解決するにふさわしい課題が、子どもの世界の中で与えられて、その課題を子ども自身が解決してこそ、子どもは成長していくのです。そして子ども同士の課題に、大人が大人の価値観で関わって解決することが、子どもの成長に繋がらないことを親は知っておくべきなのです。子どもは自らで始めた遊びがうまくいかなくても誰の責任にもしません。しかし、親が考えた方法を教えたりすることに対しては、うまくいかないと不平や不満を述べて、またその責任も親に押し付けることとなります。また親は、出来るようにしなければと思って指示するのですが、子ども自身も親に指示されてすることは嬉しくなく、親が言えば言うほど、かたくなにならなくなったりすることもあるのではないのでしょうか。

社会の変化の中で、幼児期の子どもたちの成長にとって大切な環境や体験がどんどん失われていますが、子どもたち自身が本物の遊び中で獲得していく「生きる喜び」から生み出される「生きる力」を忘れることなく歩んで行きたいと願っています。

年主題 『平和』をつくる

<年主題聖句> 「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」
(マタイによる福音書5章9節)

2月主題 「なかまと心あわせて」

聖句 “正義は国を高くし、罪は民をはずかしめる。”
(箴言14章34)